

# 「2014年新入社員意識調査」

## 安定志向でコミュニケーションを重視

昨年の就職活動は引き続き改善の兆しがみえるといわれたものの、リーマン・ショック以前のように未だ回復しておらず、依然厳しい就職活動となった。そのような厳しい就職活動を終えた多くの新入社員が、この春から社会人生活の第一歩を踏み出している。今年の調査結果から、今年の新入社員の意識を探ってみたい。

◇調査名：「新入社員意識調査」

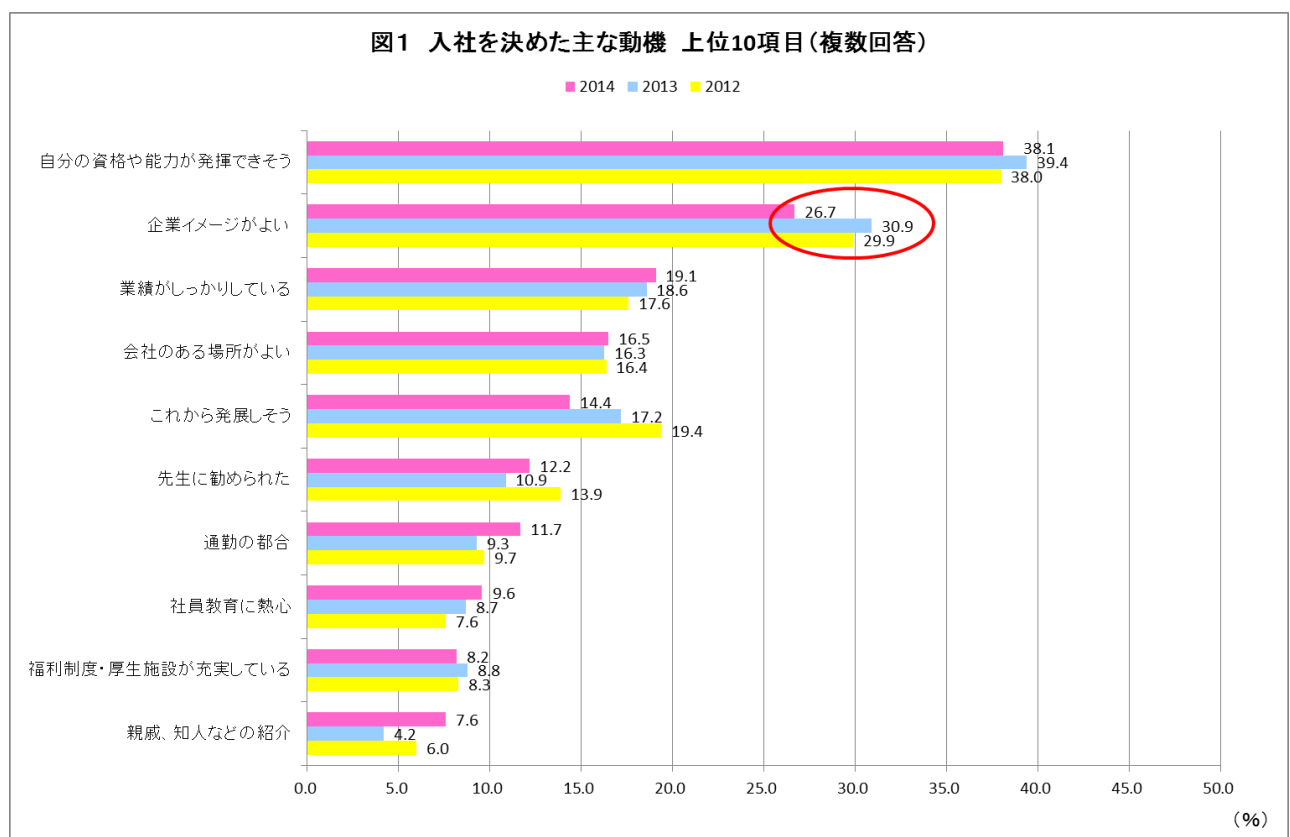
◇調査時期：3月20日(木)～4月11日(金)

◇調査対象：当社開催の新入社員研修に参加した新入社員（679名）

<男性367人（54.1%）、女性312人（45.9%）>

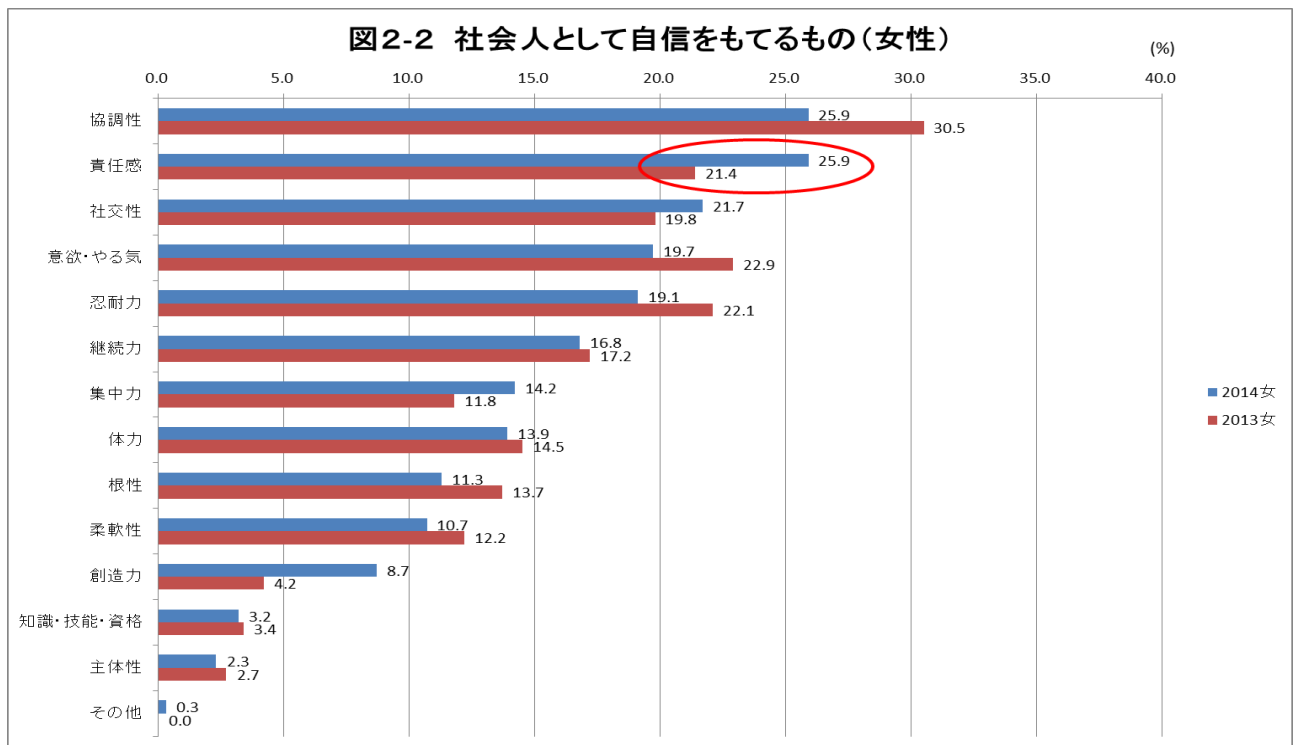
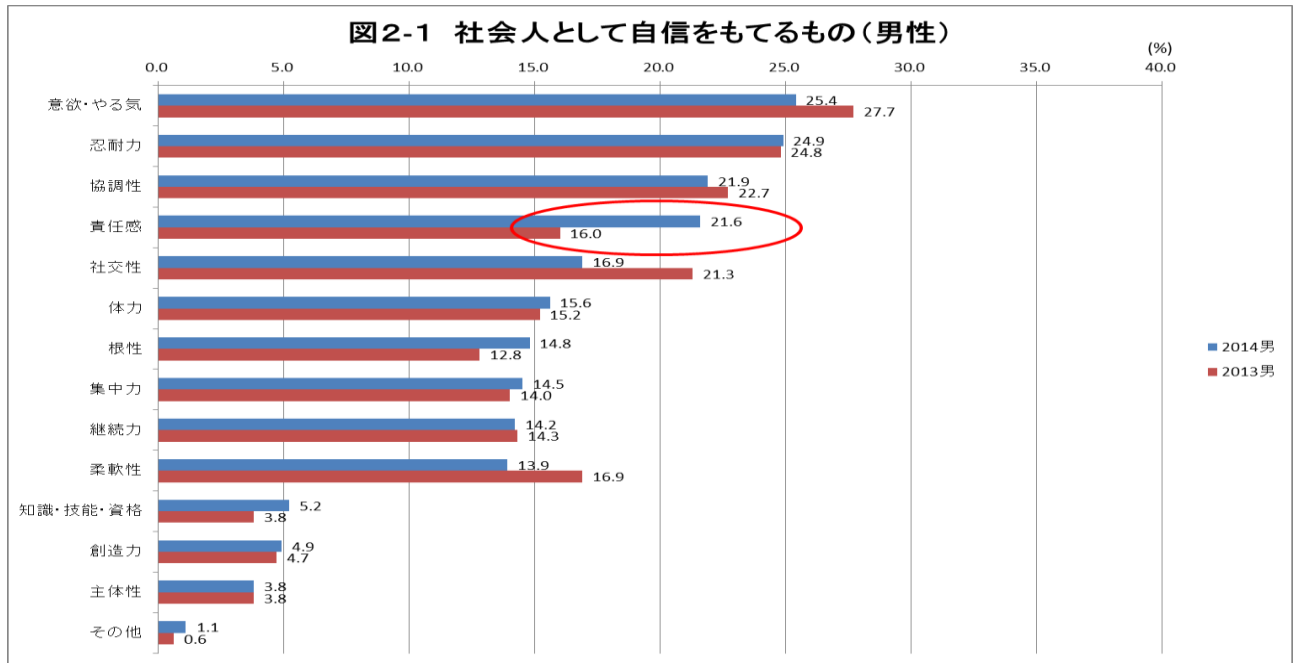
### ◆入社動機、「企業イメージがよい」は3年ぶりに下落

『入社を決めた主な動機は何か』（複数回答）と尋ねたところ（図1）、「自分の資格や能力が発揮できそう」（38.1%）が最も多く、6年連続でトップとなった。次の「企業イメージがよい」は3年ぶりに下落に転じた（29.9%→30.9%→26.7%）。一方、「先生に勧められた」（12.2%）、「通勤の都合」（11.7%）、「親戚、知人などの紹介」（7.6%）が昨年より1ポイント以上増加した。自分の能力を十分に発揮できるかという点に注目して就職活動に臨む学生が多い一方で、少数ながら受身的に就職活動を展開する学生も増加傾向にあるようだ。



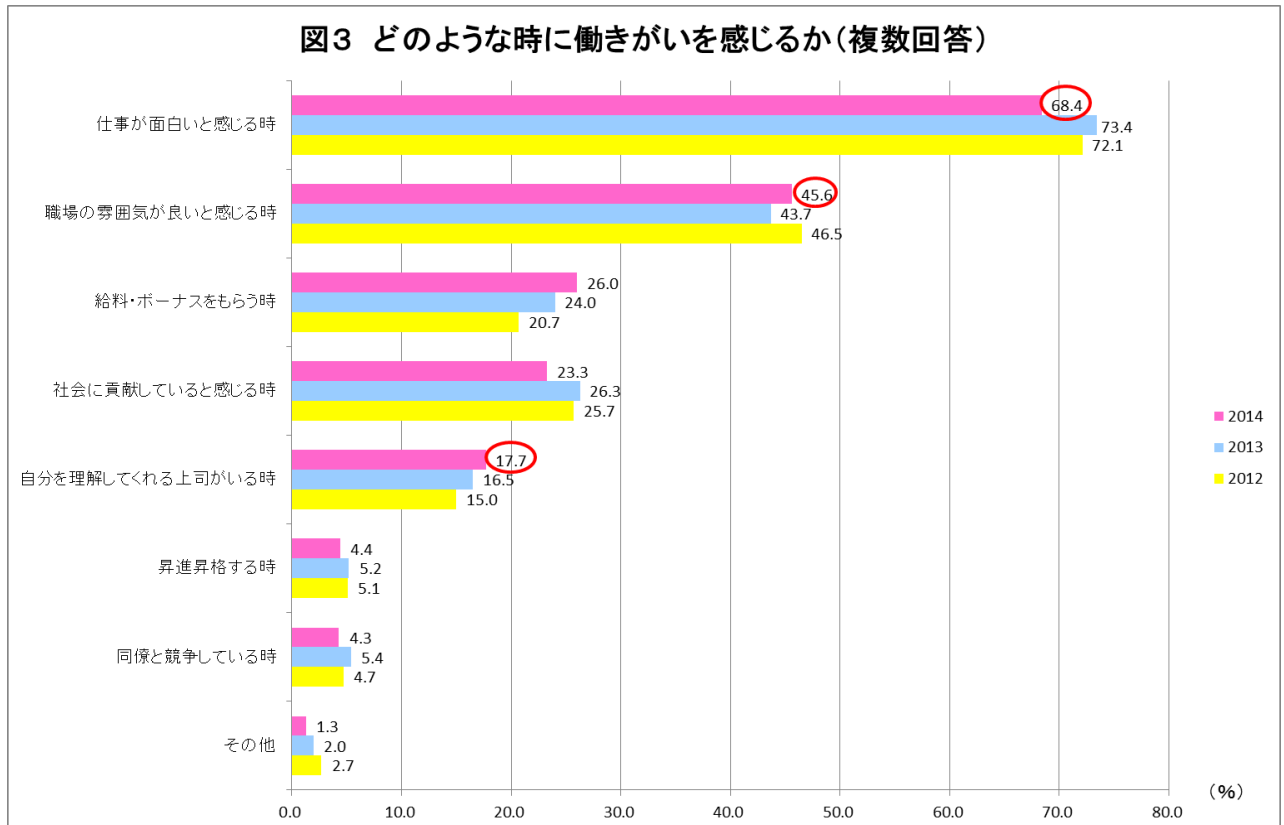
## ◆ 男性・女性とも「責任感」に自信が増加

『社会人として必要なもののうち、あなたが自信をもてるもの』（複数回答）について尋ねたところ、男性（図2-1）では「意欲・やる気」（25.4%）が最も多く、次いで「忍耐力」（24.9%）、「協調性」（21.9%）と続いた。一方、女性（図2-2）では「協調性」（25.9%）と「責任感」（25.9%）が最も多く、次いで「社交性」（21.7%）と続いた。男性・女性とも特に「責任感」が昨年より大幅に増加した（男性 16.0%→21.6%、女性 21.4%→25.9%）。



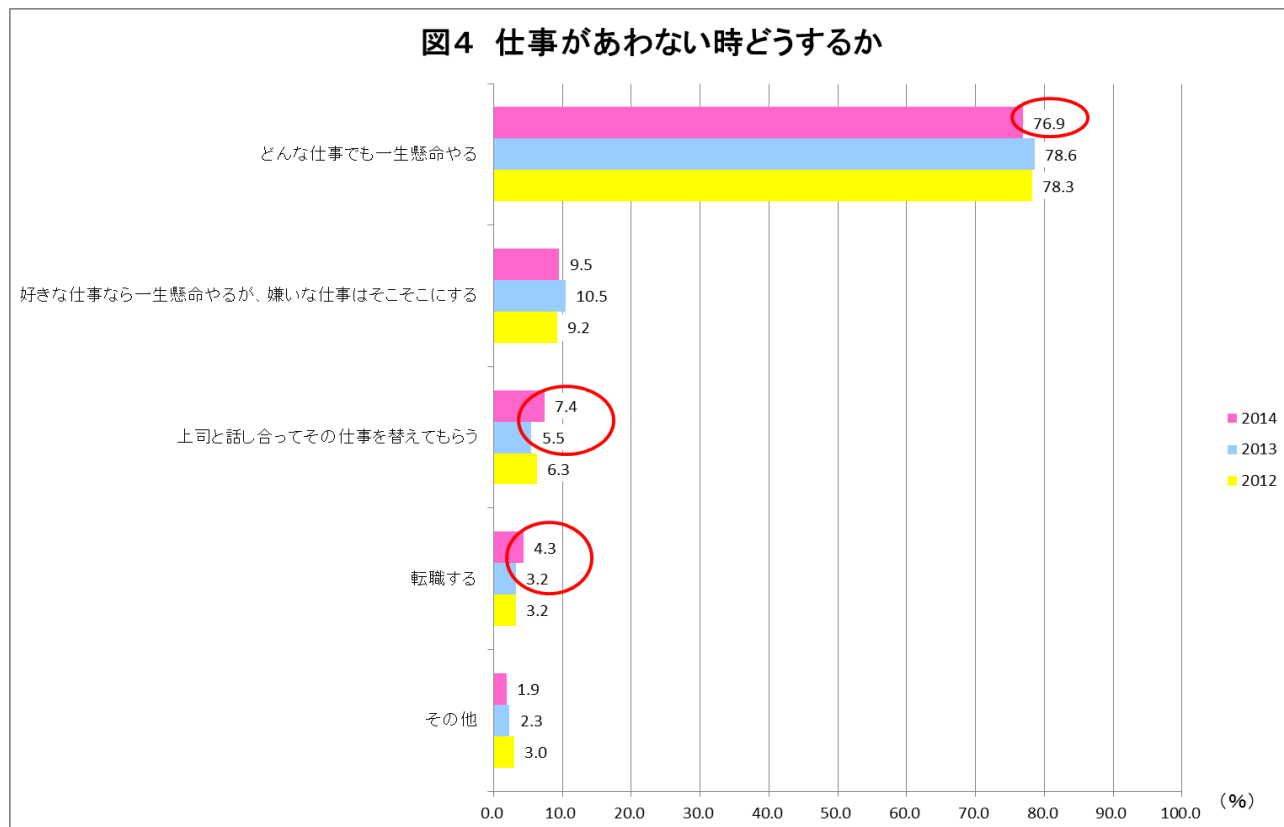
## ◆ 「職場の雰囲気」「理解してくれる上司」を重視

『どのような時に働きがいを感じると思うか』（複数回答）と尋ねたところ（図3）、「仕事が面白いと感じる時」（68.4%）が最も多いものの、昨年（73.4%）より5.0ポイント低下。一方で、「職場の雰囲気が良いと感じるとき」（43.7%→45.6%）、「給料・ボーナスをもらう時」（24.0%→26.0%）、「自分を理解してくれる上司がいる時」（16.5%→17.7%）が上昇。今年の新入社員は雰囲気やコミュニケーションといったソフト面とともに、給料など仕事に対する評価なども重視する傾向があるようだ。



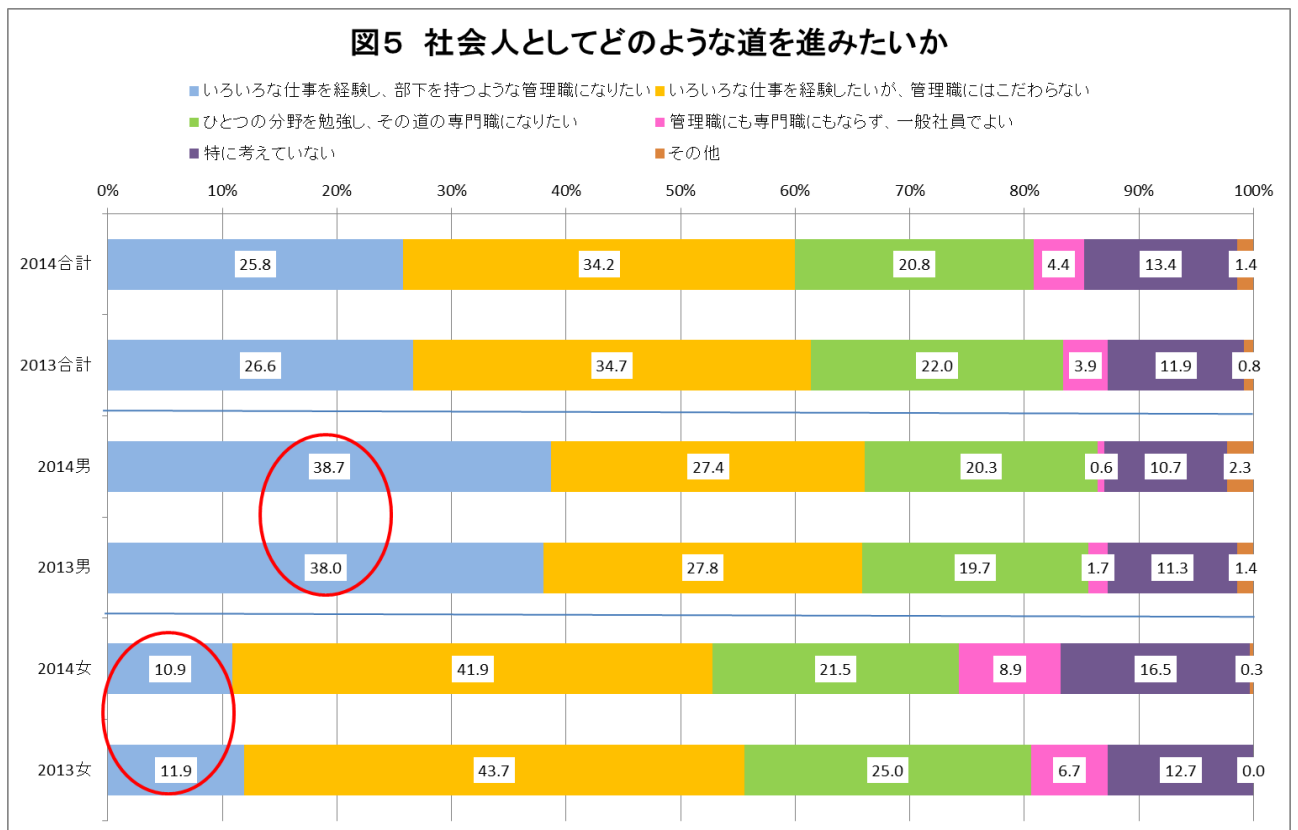
## ◆ 「どんな仕事も一生懸命に」が8割

『仕事があわない時どうするか』と尋ねたところ（図4）、「どんな仕事でも一生懸命やる」が昨年（78.6%）より1.7ポイント低下したが高位を維持（76.9%）。一方、「上司と話し合っその仕事を替えてもらう」（5.5%→7.4%）、「転職する」（3.2%→4.3%）が昨年より増加した。



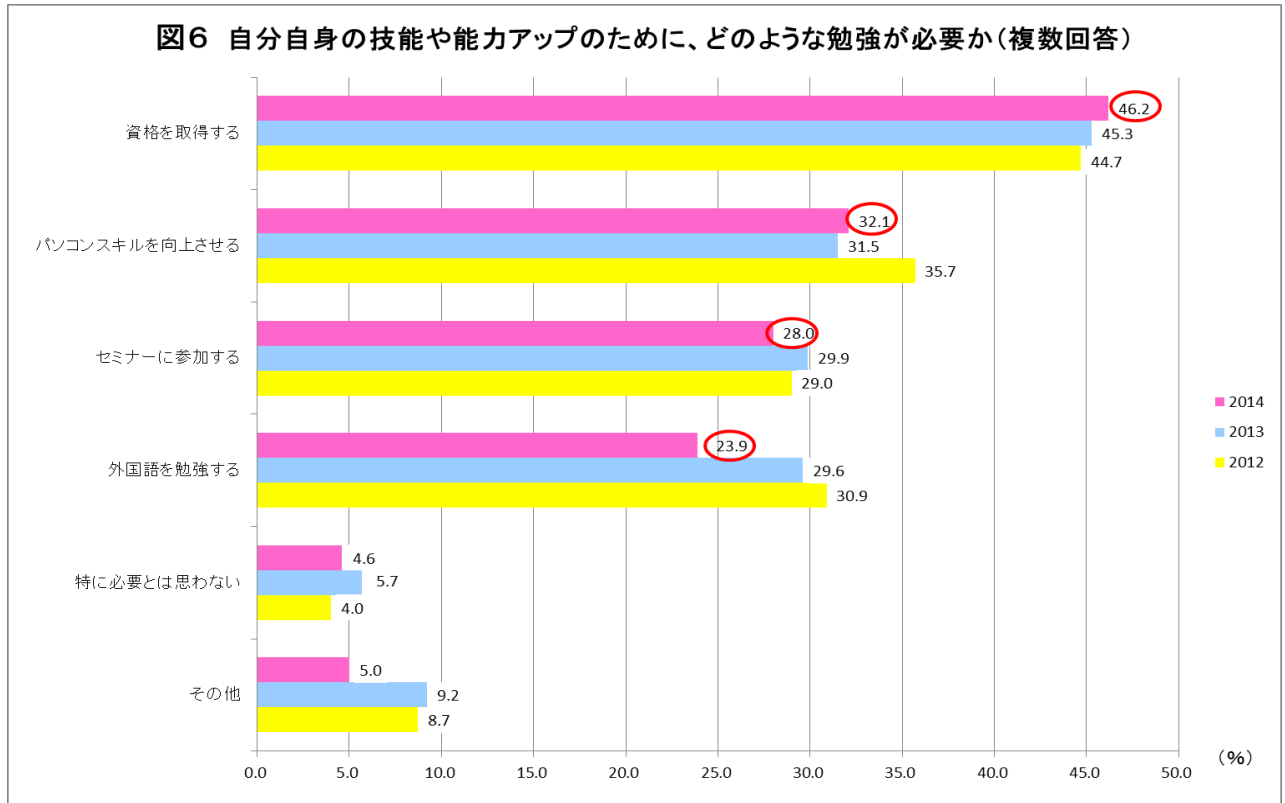
## ◆「管理職になりたい」は男性増加、女性低下

『社会人としてどのような道を進みたいか』と尋ねたところ（図5）、「いろいろな仕事を経験したいが、管理職にはこだわらない」（34.2%）が最も多く、次いで「いろいろな仕事を経験し、部下を持つような管理職になりたい」（25.8%）、「ひとつの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」（20.8%）と続いた。男女別で見ると、男性では「管理職になりたい」「ひとつの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」が昨年より増加（それぞれ38.0%→38.7%、19.7%→20.3%）。一方、女性は「管理職にも専門職にもならず、一般社員でよい」「特に考えていない」が昨年より増加し（それぞれ6.7%→8.9%、12.7%→16.5%）、その他の3項目は昨年より減少した。



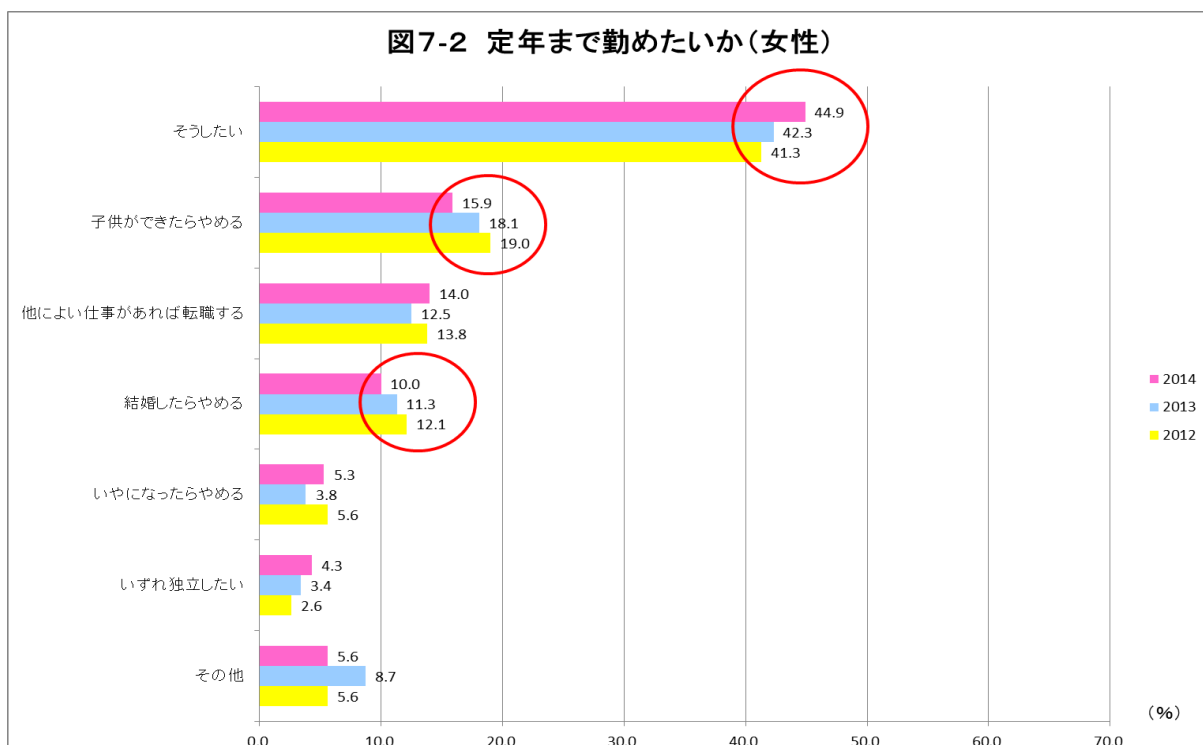
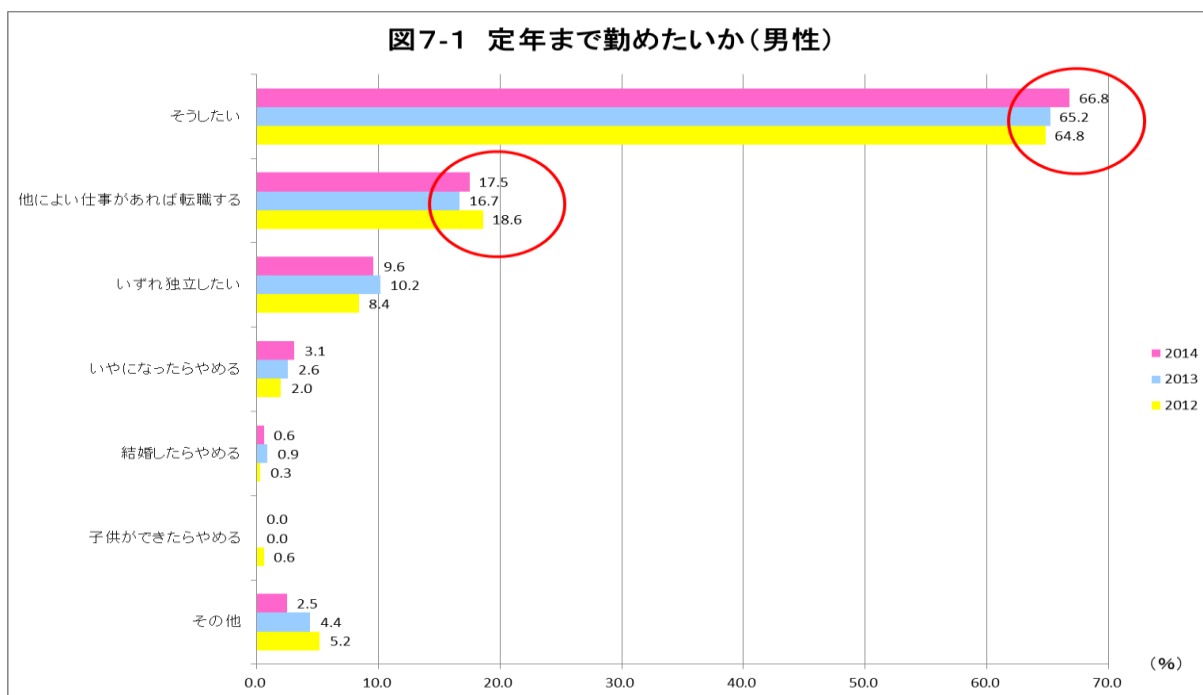
## ◆「資格取得」を目指す半数

『自分自身の技能や能力アップのために、どのような勉強が必要か』（複数回答）と尋ねたところ（図6）、「資格を取得する」（46.2%）が最も多く、次いで「パソコンスキルを向上させる」（32.1%）、「セミナーに参加する」（28.0%）、「外国語を勉強する」（23.9%）となった。「資格を取得する」では、建設業で1級建築士等、具体的な資格の明示があった回答が多数見受けられた。



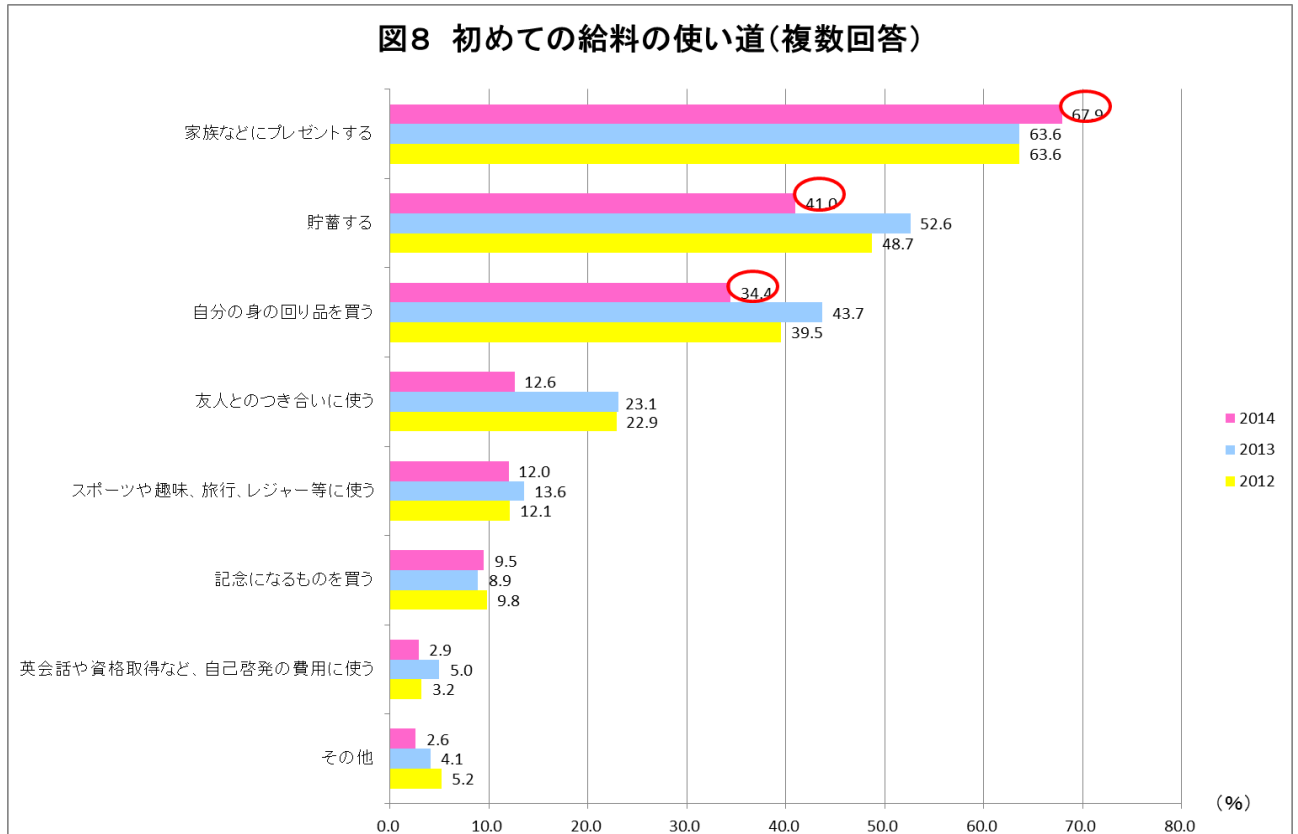
## ◆結婚、出産を機にやめる女性は3年連続で減少

『定年まで勤めたいか』を尋ねたところ（図7-1、図7-2）、男女とも「そうしたい」が最も多く、3年連続での上昇となった（男性：64.8%→65.2%→66.8%、女性：41.3%→42.3%→44.9%）。男女ともに安定志向が高まっているようだ。男性では「他によい仕事があれば転職する」は昨年より若干増えた（16.7%→17.5%）。女性では「子供ができたらやめる」「結婚したらやめる」は3年連続で減少となった（それぞれ19.0%→18.1%→15.9%、12.1%→11.3%→10.0%）。結婚、出産後も働くという女性の割合が徐々に増えており、意識の変化が進んでいるようだ。



## ◆初めての給料は「家族へのプレゼント」

『初めての給料の使い道』（複数回答）を尋ねたところ（図8）、「家族などにプレゼントする」（67.9%）が最も多く、次いで「貯蓄する」（41.0%）、「自分の身の回り品を買う」（34.4%）となった。「家族へのプレゼント」は昨年（63.6%）より4.3ポイントの増加となった一方で、「貯蓄する」「自分の身の回り品を買う」「友人とのつき合いに使う」は昨年より大きく低下した（それぞれ 52.6%→41.0%、43.7%→34.4%、23.1%→12.6%）。自分のためではなく家族への感謝を重視する姿が見て取れる。





## ◆理想の上司は「イチロー」と「天海祐希」が人気

『理想とする上司像を有名人に例えると』と尋ねたところ（表）、男性の上司としては、米大リーグの「イチロー」が62人（男性46人、女性16人）で9年連続の1位となった。女性の上司では女優の「天海祐希」が63人（男性20人、女性43人）で5年連続の1位となった。

『その有名人を選んだ理由』では、「イチロー」は「頼りになりそう」「率先して手本を見せてくれそう」が各24人で最も多く、次に「仕事ができそう」が18人で続いた。「天海祐希」を選んだ理由は、「頼りになりそう」が32人で最も多く、「仕事ができそう」が23人で2番目に多い回答となった。仕事ができ頼りになるのが理想の上司像のようである。

表 理想とする上司像

男性の上司	回答数(人)	順位	女性の上司	回答数(人)
イチロー	62	1	天海祐希	63
森田 一義	38	2	江角マキコ	21
明石家さんま	19	3	真矢 みき	17
本田 圭佑	13	4	澤 穂希	12
堺 雅人	10	5	ベッキー	11
松岡 修造				

## ◆「定年まで勤める」意識高まる

昨年の就職活動も、回復の兆しはみえつつあるものの、未だ厳しい状況が続いていた。これを反映してか、入社動機では、「企業イメージがよい」が3年ぶりに低下した。一方で、縁故、紹介、通勤等の理由で就職先を決定する新入社員も増加傾向にあり、少数ながら受身的に就職活動を展開する学生が増加傾向にあるようだ。

“働きがい”という点においては、「職場の雰囲気」や「理解してくれる上司」等、コミュニケーションを重視する傾向にあるようだ。また、男性、女性ともに「定年まで働く」という意識が高まっており、生涯一企業という安定志向、結婚・出産後も働くという女性の意識の変化が見取れる。

今年の新入社員の特徴を踏まえ、受け入れる側も新入社員と積極的にコミュニケーションをとりながら、新入社員の社会人としての成長を温かく見守っていきたい。

2014年5月  
株しがぎん経済文化センター  
吉川 友